

経済マンスリー

[原油]

原油市場を取り巻く環境（4月）

1. 原油価格の推移

原油価格(WTI期近物1バレル当たり)は、4月1日のOPECプラスによる5月以降の協調減産の段階的縮小決定に伴い58ドル台まで下落し、その後も英製薬大手の新型コロナウイルスワクチンと血栓との関連性に関する報道が景気回復への水差しを通じた原油需要下振れを想起させ価格下押し圧力となったが、14日に国際エネルギー機関(IEA)がワクチン接種の加速を背景に今年需要見通しを引き上げると上昇に転じ、足元では60ドル台前半で推移している(第1図・上)。

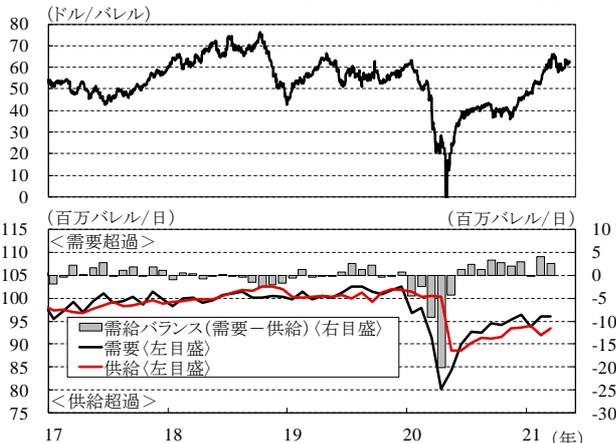
2. 需給の動向

米エネルギー情報局(EIA)月報によると、3月の世界の原油需要量は日量9,600万バレル、供給量は同9,347万バレルとなり、需要超過幅は米南部大寒波があった2月比では縮小したものの、スエズ運河座礁事故による供給障害も影響し相応の水準で推移した(第1図・下)。

原油需要は、2月まではコロナ禍前の2015～2019年のレンジ下限付近で推移していたが、世界経済持ち直しに伴い3月は同レンジ中央に近付いた(第2図・上)。もっとも、原油需要が順調に復調しているとみるのは早計だ。ガソリン需要低迷が続くほか、コロナ禍で大きな打撃を受けた航空需要に関しても、国際航空運送協会(IATA)の今年の世界の商用航空機座席キロ^(注)見通しを見ると、ワクチン普及や路線の運航再開が想定よりも遅れていることを反映し、依然2019年比で▲40～50%のレンジにあるためだ(第2図・下)。航空関連の原油需要は、景気回復に合わせ復調していくものとみられるが、コロナ禍前水準に戻るまでには猶も時間を要する可能性が高い。供給サイドでは、OPECプラスの協調減産縮小(=増産)が予定されているほか、60ドルを超えると持ち高調整の売りが生じ易い面もあることから、総合すると、原油価格は引き続き上値の重い展開となりそうである。

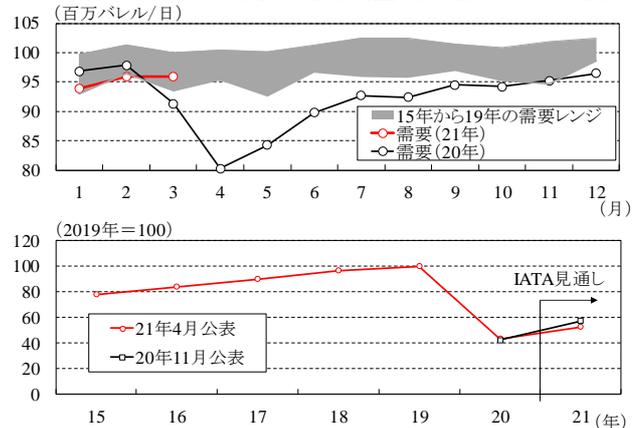
(注) 旅客輸送容量の単位。総座席数に輸送距離(キロ)を乗じたもの。

第1図：原油価格及び世界の需給バランスの推移



(資料) EIA、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図：世界の原油需要、商用航空機の座席キロの推移



(注) 『20年11月公表』における20年の数値は当該時点の見通し

(資料) EIA、IATAより三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 布施 直樹 naoki_fuse@mufg.jp
鷹巣 里奈 rina_takasu@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。